

「豊岡市大交流ビジョン」を策定 ～小さな世界都市の実現に向けて～

「小さな世界都市 － Local & Global City －」を実現するため、観光面から目指すべき姿や対応策、目標数値、推進体制などを示した「豊岡市大交流ビジョン」を策定した。

1 基本的事項

- (1) “観光”を“交流”と捉え直し、タイトルを「大交流ビジョン」とした。
- (2) 「観光」は、そこに訪れる人々が、その地の人々・自然・歴史・伝統・生活文化等、様々な構成要素からなる「まち」そのものと交わる営みであり、「交流」は対話とコミュニケーションを生み出す。
- (3) 「交流」によって、豊岡を訪れる人々と豊岡のまちやそこに暮らす人々、豊岡を訪れる人々同士、さらには豊岡の市民同士の対話とコミュニケーションが生まれる。深い交流から、自分自身との対話が始まる可能性もある。観光産業は、そのような対話とコミュニケーションが生まれる場を提供する産業であると言える。
- (4) 大交流を実現するため、「豊岡のローカル」をさらに魅力あるものに磨き、新しい価値や工夫を加え、「ここにしかないもの」に大きく育てていく必要があり、大交流ビジョンは、そのための基本的な考え方と方策をまとめている。
- (5) 豊岡市は「小さな世界都市 － Local & Global City －」を目指しており、大交流は、その実現のための有力な戦略でもある。

2 大交流ビジョンの概要

(1) 観光に関するマクロ環境と豊岡市における観光産業の位置づけ

- ア 観光市場は世界的に成長しており、中間層の拡大により今後も成長が期待される。
- イ 訪日外国人旅行者も増えており、国は2030年の目標を6,000万人と定めている。
- ウ 豊岡市の観光産業は、最も外貨を稼ぐ産業であるため基盤産業として位置付けている。

(2) 取組み方針

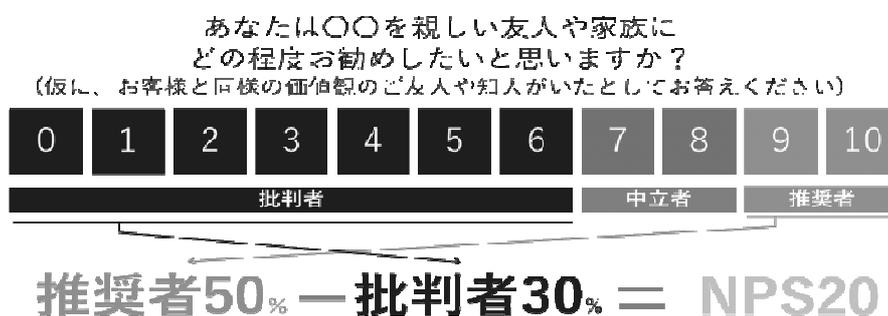
- ア 豊岡にしかない価値や豊岡でしか経験できないローカルを磨く。
- イ 成長市場であるインバウンドの宿泊誘客に重点的に取り組む。
- ウ 国内旅行は、縮小する関西圏市場への依存から脱却し、新規市場を開拓する。
- エ 閑散期の需要を喚起し、年間を通じた安定的な雇用を創出する。
- オ 人材の育成を図るとともに、待遇改善や働き方改革により人材を確保する。
- カ 地消地産を進め、地域内調達率を高めることにより、市内の経済循環を促進する。

(3) 大交流モデル

- ア 生活文化ツーリズム
- イ コウノトリツーリズム
- ウ 地場産業ツーリズム
- エ スポーツツーリズム
- オ ユニバーサルツーリズム
- カ 小規模MICE（会議、研修、学会、展示会等）

(4) 大目標(KGI)

NPS（ネットプロモータスコア^{※1}）と観光による地域経済への波及効果総額で測定することとし、具体的な数値目標を設定した。目標年次は2030年度である。



※1 お客様の満足を超えた「愛情」や「信頼の度合い」を数値化した指標

3 2019(平成31)年度 of 取組み

- (1) 具体的な事業内容を定めた「前期アクションプラン」を策定
- (2) 大交流ビジョンを実現するための観光振興財源のあり方について検討
- (3) 観光協会と豊岡観光イノベーションの機能分担や組織のあり方など推進体制の検討

[問合せ] 豊岡市環境経済部大交流課 TEL0796-21-9016